

令和5年度 社会科実践・研究計画

部 員	○石田 智之、鈴木 聡
-----	-------------

研究テーマ
自らの学習状況を見つめながら、主体的・協働的に学習問題の解決に取り組む子どもを育む学び

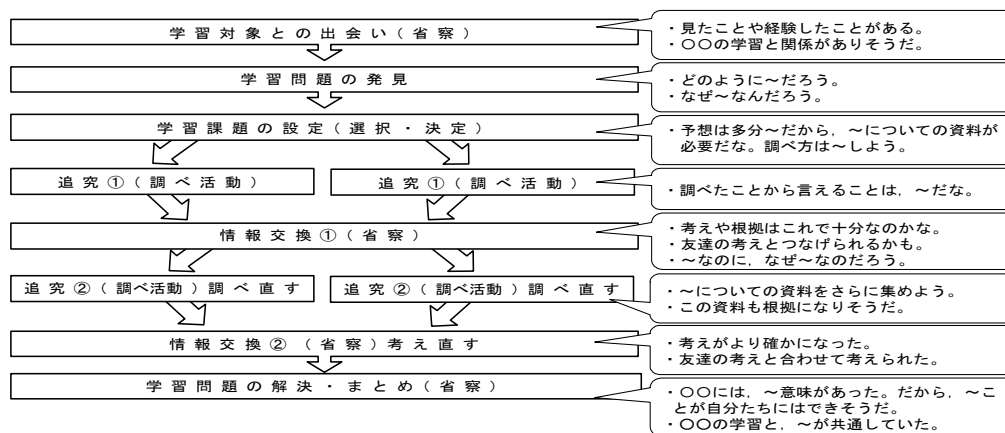
1 研究テーマについて

社会科では、社会的事象について捉え直すことを通して、よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする子どもを育むことが重要である。主体的・協働的に学習問題の解決に取り組むとは、社会的事象の追究を自分ごととし、自分たちにできることを考えたり、自分の意見を決めたりすることである。そのためには、社会的事象について複数の立場や意見を踏まえ、多角的に考察し、広い視野で捉える必要がある。さらに、社会的事象は多様な解釈ができるため、仲間と協働的に問題解決に取り組むことを通して、自らの学習状況を見つめ、自分の考えを発展させようとする姿を引き出すことが期待できる。

昨年度までの実践において、自分の考えと仲間の考えをつなぎながら社会的事象について深く考察し、考えを発展する力が十分には身に付いていない点で課題が残った。そこで今年度は、自らの考えを見つめ直し、自分の考えを練り上げていく力を高める学習過程にするための手立てを重点として実践・研究を進めていく。社会的事象について広い視野から捉えられるよう、価値ある資料提示や効果的な情報交換の場を設定し、「学びのものさし」の更新を目指す。このことにより、自分の言葉で説明する必要感をもって調べ直したり考え直したりすることで、社会的事象を多角的に考察し、広い視野から捉えるための「学びのものさし」が確かになり、よりよい社会を考え主体的に問題解決する姿を引き出すことにつながると考える。

社会科で目指す自律した子どもの姿

- ・ 学習問題の解決に向けて見通しをもち、自らの学習状況を見つめ、調べ直したり考え直したりしながら社会的事象を追究している姿。
- ・ 社会的事象の特色や相互の関連、意味について、根拠や理由を明確にして説明している姿。



図：社会科 自律した学習者を育てる学習のプロセス

2 研究の重点〈○は具体的な取組の例〉

- 自分の考えを練り上げていく力を高める学習過程にするための手立てを工夫する。
- 社会的事象について、多角的に考察し、自分の考えや意見を定めるための手立て
 - ・ 複数の資料や日常生活につながる事象等、価値ある問いを促す資料提示をする。
 - ・ 問題の解決や自らの生活への活用を意識した、自分なりの考えを説明する場面を設定する。
 - 必要感のある省察につながる情報交換の場の設定
 - ・ 互いの考えのずれや曖昧さを情報交換によって焦点化し、全体で共有する。
 - ・ 収集した資料や思考ツールを活用した情報交換とする。